

第25号

スポーツ推進だより

平成24年3月発行

宮崎市スポーツ推進委員協議会

平成24年度に向けて



自然の驚異にさらされた平成23年が終わり、平成24年がスタートしました。振り返れば、本当に大変な1年でした。1月に新燃岳の噴火で、さまざまな事業が出来るのだろうか心配した矢先、東日本大震災が発生し、後はご存じの通りです。

私にとっても会長職を引き受ける事自体が大変な出来ごとでしたが、各事業も皆様の心暖まる御協力を頂き終了する事が出来ました事に対し心より感謝申し上げます。

昨年8月「スポーツ基本法」が変わりました。これからの「スポーツ推進委員」にとって「スポーツの推進のための事業実施に係る連絡調整」と言う、難しい課題が求められています。この課題に対応するには、少しでもスポーツ推進委員としての資質の向上図らなければなりません。また、同時に「スポーツ推進委員」の名称を地域住民の方々に周知して頂くための方法等を皆様と一緒に考えて行きたいと思いをします。

又、これからのスポーツ推進委員活動していく中で、総合型地域スポーツクラブとまちづくり推進委員会、包括支援センター等と上手く連携が取れていないように思いますので、これらをどのように関連し位置づければいいのかを最重点課題として活動していきたいと考えていますので皆様の御協力をお願いいたします。（会長 山本幸徳）

事業部長より

23年度の事業も無事終了しました。各班長の皆さん班員の皆さん、大変お疲れ様でした。いくつかの反省点もあると思いますが、改善しながら、24年度行っていきたいと思いをします。体指の皆さん本年も、宜しくお願い致します。（中川時夫）



研修部長より

初の研修部担当を仰せつかって早くも1年が過ぎました。力不足に不慣れも重なって、皆さんには十分な研修を提供できていないのではないかと反省しています。

研修活動はあくまでも自主研修ですので、地区や宮崎市の様々な企画の狭間で行わなくてはなりませんので、日程調整の難しさを感じます。また、今スポーツ推進委員に必要なものは何かを的確に判断するのも難しいものですね。

23年度は役員の皆さんに大いに助けていただいた1年でしたので、24年度は是非自律した研修部で有ることと、皆さんのニーズに応えられる自主研修を目指したいと思っています。皆様のご要望等をお聞きする機会もつくれたらな一と思っています。よろしくお願い致します。（松竹昭彦）



スポーツ推進委員の名称に期待

指導委員から推進委員へ名称が変わりました。今までの指導委員から受ける印象は、多くの人が「指導員」と解釈されていました。「体指＝指導者」との認識が主流だった様な気がします。実情は、一部のひとが指導で多くの人がお手伝いのみでした。20年以上前から、「行政とのパイプ役とかコーディネータの役ですよ」と言われていますが、「笛吹けど踊らず」の状態、体指の組織も衰退して来たのだと思います。「推進委員」との名称になり、これから委嘱される人たちの認識は、変わってくるのではと、期待します。

30年勤続表彰を受賞して

清武 新木るい

思い起こせば31年前、女性体指として清武町にて任命されました。お陰さまで「社会と結びついていたい」という願いが叶い、楽しんでやってこれました。初年度から幼児スポーツ教室を企画運営して今日に至っています。レクリエーションも中学時代に醍醐味を知り、体指になり益々深みにはまっていきました。体指の県大会・九州大会はほぼ100%参加でき研修させて頂きました。



これまでこれたのは清武町体指の方々の応援と町民の皆さまのお陰で表彰して頂く事ができたのだと心より感謝申し上げます。

全国体育指導員大会に参加して一番驚いたのは、宮崎県の参加者が8名で全国で最低でした。どうして少ないのでしょうか?内容は出演者のほとんどがプロの方々でした。分科会のテーマ「まちづくりの事例からスポーツと地域との結びつきを考える」成功事例は成功するなりのコンセプトや努力があり、宮崎県はプロスポーツのキャンプが多く、大変参考になり心に火が灯ったような感覚になり興奮致しました。体指も視点を変えプロのやり方に学べき点が多くあることを教えられました。宮崎県大会で宿泊するのではなく、九州・全国大会に参加し新風を感じる事の大切さを痛感致しました。

第54回九州地区スポーツ推進委員研究大会報告

1月21日、朝7時30分宮崎出発10名の参加でした。会場は福岡国際会議場で、福岡の推進委員の多さと会場の広さに圧倒され久しぶりの九州大会に参加出来たことを嬉しく思いました。

テーマは「今こそ求められるスポーツ力」「スポーツ基本法にみるスポーツ推進委員の役割」でした。正直な感想はあまりにも内容が高度で、聞くことが苦痛に思えてしまいました。印象に残っているのは「九州は一つ、九州から全国にアピールして行きましょう」の呼びかけでした。

表彰式は受賞者のあまり多さに驚きました。22日のシンポジウムは体操から始まり、3人の方々の体験談が語られ、和気あいあいの中で終了しました。夜の中州の街は各地の推進委員で溢れていました。(倉岡地区 坂元孝夫)

第54回九州地区スポーツ推進委員大会に参加して開会式の後、宮崎市から甲斐勝博体指が功労賞の表彰を受けられました。

基調講演は、仙台大学の阿部篤志講師が「今こそ求められるスポーツの力」について行われました。東日本大震災を中心に、いかにスポーツの力が人々を心理的な救いとなったか、コミュニティの重要性を話され、良い勉強になりました。

又、二日目は、神戸大学の山口泰雄教授による基調提案「スポーツ基本法にみる、スポーツ推進委員の役割」があり、元NHKの山本浩キャスター・元オリンピックの柴田亜衣氏・全国体指連合の副会長土谷忠昭氏らとシンポジウムが行われ、それぞれの目線からのスポーツ推進委員の役割、在り方を話され、私達も色々勉強し理解し活動しなければならぬと感じました。(大宮地区 日高彬)



今までの違いとは?

体育指導委員

スポーツの牽引者

スポーツ推進委員

スポーツ推進を通じた「新しい公共」の牽引者

九州地区スポーツ推進委員功労賞を受賞して

生目台 甲斐勝博

今度は、九州地区スポーツ推進委員功労賞を頂き、誠に有難うございました。

思い返すと39歳で委嘱を受けてから、早いもので20年の月日が経ちました。学生時代には体育系の勉強をし、スポーツはいつも私の生活の中心にありました。

推進委員として地域の人々の交流と体力づくりを目的とした各種スポーツ大会の企画運営を始め、ママさんバレーやスポ少のバレーの指導などの活動が出来ました。この事は貴重な経験でもあり私の人生をより充実させる生き甲斐となっています。

更に「スポーツ推進委員」の名称を広く周知し、「スポーツの推進の為に事業の実施に係る連絡調整係」として、地域のスポーツを推進していく気持ちを新たに致しました。

今回の表彰を弾みにして、これからも微力ながら「スポーツの力」を信じて、活動していきたいと思っています。



第51回宮崎県スポーツ推進委員研究大会報告

日 時： 11月26日(土)・27日(日)
場 所： 小林市文化会館 257名(宮崎29)
小林市市民体育館 169名(宮崎10)
研究主題： 「時代のニーズに応じた体育指導委員の在り方」
実 技： エアロビクス・ヨーガ・ガッツイ運動教室
パネルディスカッション：

「地域の実態に応じた魅力的なスポーツプログラムを展開するための連携の在り方」



コーディネーターである徳島大学大学院講師の行實鉄平氏が次のように結びました。

「これからのスポーツ推進委員は実技指導のみではなく、スポーツコーディネーターとして総合型地域スポーツクラブに関わらざる終えなくなる。大きく括って物を見る能力が必要である。①体育協会 ②スポーツ推進委員 ③総合型スポーツクラブが協働して活動すること。そして、お互いのやっていることを知り、尊重し合う事が大切である。常に学び続けるスポーツ推進委員であって欲しい。」
時代のニーズに応じて、一層努力しなければならないと感じた大会でした。(広報部員)

宮崎県スポーツ推進委員功労賞を受賞して

今度、体育指導委員功労者として表彰して頂き、誠にありがとうございます。
地区の体育委員として活動し体育指導委員として10年が過ぎました。これも一重に地域のより推薦して頂き今日まで活動させて頂いたお陰だと思えます。これからも微力ではありますが地域のスポーツ振興に尽力を注ぎ活動していきたいと思えます。(中央西 今西カツ子)



今度、このような賞を頂き大変光栄に思っております。体指としての役割を受けて私自身いろいろな経験をさせていただきました。地域の為にどれ程役に立てたか分かりませんが、これからも精一杯頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。(檉地区 福原美由紀)



今回、功労者表彰を受賞させて頂きたいへん光栄です。皆さんとの活動を通して何とかここまで続けてこられました。この受賞を機に微力ではありますが、誰もが、気軽に、スポーツに接し、楽しめるように自分なりに自分出来ることを頑張っ活動して行こうと思います。(高岡地区 川畑明弘)



23年度第3回宮崎市自主研修会報告

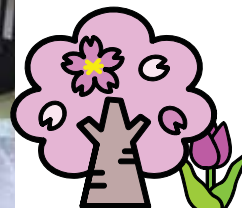
日 時： 24年3月3日(土) 13時30分～
場 所： 宮崎地区交流センター
内 容： 「救命率を向上させる為の応急手当法等」
参加者数： 24名

※イベントの際の緊急時への対応と心得を横山研修委員より説明が有る

- ①保険への加入は必須である
- ②AEDの有無や設置場所の確認が必要
- ③休日担当医の事前確認が必要
(宮崎HPで確認出来る)

※宮崎市消防局応急手当研修センター職員により、人形やAEDを使って講習及び実技指導が行われる。

短い時間でしたが、有意義な研修だったと思います。研修部の皆さん、お疲れさまでした。有難うございました。



第28回地区対抗駅伝競争大会報告

24年1月22日、生目の杜運動公園内周回コースで地区対抗駅伝競争大会が開催された。肌寒い小雨が降る中でスタートしたが、後半は雨もあがり、6区間に小学生から40歳以上の選手が力走。一人の棄権者、けが人もなく無事終了。今年は女子10チーム、男子15チーム総勢150人の参加となる。（広報部員）

大会成績

男子 ①赤江A ②高岡 ③大宮

女子 ①大塚 ②赤江 ③住吉

区間賞男子 1区 濱田 晃成（大淀） 2区 西條 雄貴（高岡） 3区 西村 国博（高岡）
4区 脇田 教聖（大淀） 5区 亀鷹 雄輝（大淀） 6区 有田 浩敏（赤江A）

区間賞女子 1区 黒木 裕子（生目） 2区 三雲 唯（赤江） 3区 蛭原奈津恵（住吉）
4区 鈴木 梨子（赤江） 5区 甲佐かな（大宮） 6区 永山 美保（大塚）

第53回地区対抗バレーボール大会報告

期 日： 平成23年11月27日(日)

場 所： 宮崎市総合体育館

成 績： **自治会の部**（男子 5チーム・女子5チーム）

男子 優勝：大塚下区（大塚地区）

準優勝：東花ヶ島（東大宮地区）

女子 優勝：中西町（潮見地区）

準優勝：大塚中区（大塚地区）

選 抜の部（男子 8チーム・女子6チーム）

男子 優勝：中央西（中西地区）

準優勝：江平（江平地区）

女子 優勝：赤江（赤江地区）

準優勝：中央西（中西地区）



地区予選がなく、選抜チームとしての参加が増えているのが現状です。申し込み期限が守られず、参加資格のない選手の出場チームもあり、スポーツをする以前の問題点が有るように思われた。スポーツ推進委員協議会、地区体育会、行政の姿勢も問われる。又、趣旨である地域住民のコミュニケーションや親睦、生涯スポーツの推進に寄与する大会か疑問視される。大会運営は体指22名の参加があり、スムーズに進行、負傷者もなく予定より早目に終了した。（副会長：本部伴典）

第10回地区対抗グラウンドゴルフ大会報告

期 日：平成24年3月10日（土）場所：生目の杜 多目的グラウンド

成 績： **団体の部** 優勝：野村勝男(高岡) 準優勝：川崎テル子(佐土原) 第3位：田原孝(倉岡)
個人の部 優勝：光陽台(佐土原) 準優勝：田野町A(田野) 第3位：住吉団地(住吉)

晴れた穏やかな日に42チーム210人の参加で行われた。戸敷市長も挨拶に来られ、来賓として川村衆議院議員もご出席頂いた。86歳の高齢の方が2人も参加されており、そのハツラツとした姿を見ると、益々元気付けられたように思われる。

今後の課題として、仕事内容、人員配置等々あると思われる。よりスムーズに運営出来るよう、細かいルールのマニュアル化が必要ではないかと思う。しかし、それにしては、皆さん参加された方々は、若々しく大変元気である。私達もスポーツに携わる以上、もっともっと元気に生きていきたいと思った。お疲れさまでした。（広報部員）



広報部長より

広報部長を仰せつかり1年が来ようとしています。スポーツ推進委員としてまだまだ経験の浅い私が、年3回の広報誌発行にこぎ着けられましたのも、優秀な広報部員7名の協力と、原稿依頼に快く応じて頂いた皆さまのお陰です。ありがとうございました。

来年度も協議会の活動内容だけでなく、頑張っている仲間の情報や為になる情報を織り交ぜながら掲載して参ります。今後共、皆様の情報提供・ご協力を宜しくお願い致します。（坂永途美子）

広報スタッフ

部長 坂永途美子(住吉) 副部長 藤田眞次(高岡)

部員 坂元孝夫(倉岡)・長友ひとみ(江平)・本部伴典(檜)・杉元雅代(東大宮)・長友秀樹(清武)